MY BOOK MARK
～本当に使いやすい製品がこの中に～

# X線透視システム CUREVISTA Open

File No. 97

公益社団法人益田市医師会立 益田地域医療センター医師会病院
放射線技術科
山田和幸

## はじめに

島根県西部にある益田地域医療センター医師会病院（以下当院）は公益社団法人益田市医師会が管理運営する地域医療支援病院である。一般・地域包括ケア・回復期リハビリテーション・医療療養の病床208床を有する、いわゆるケアミックス施設である。放射線技術科は診療放射線技師4名と事務員1名で構成し、当院と近隣医療機関から依頼される画像検査を担っている。当院ではX線透視撮影室を1室設け、主に大腸をはじめとする内視鏡検査、整形外科の透視下整復術や神経ブロック、リハビリテーション科の嚥下造影検査等多目的に利用している。2022年3月にそれまでのCアーム型X線透視撮影装置から富士フイルムメディカル社製X線透視システムCUREVISTA Open（以下、CUREVISTA Open）へ更新した。装置更新から約3年が経過しているが「本当に使いやすい製品」と実感している。本稿ではこの導入と使用経験から特徴と有用性について紹介する。

## CUREVISTA Openの基本性能

CUREVISTA Open（**図1**）はいわゆるアイランド型のX線透視撮影装置である。搭載するX線高電圧発生装置はインバータ方式、公称最大電力50kwである。受像部である間接変換方式FPD（Flat Panel Detector：平面検出器）は有効視野サイズ42cm×42cm、画素サイズ148μm、受像したX線量は16bitのデジタル信号として出力される。このFPDからの出力信号は「VISTA BRAIN」と呼ばれる高速GPU（Graphic Processing Unit：画像処理装置）によりノイズ低減やフレーム補間処理等適切な処理が施され、診断や処置に適した透視映像や撮影画像が提供される。またこの高画質化により診断に必要とするX線量の低減が可能となり、患者や術者の低被ばく化にも寄与する。

## 完全に固定された天板SECURE TABLE

CUREVISTA Open最大の特徴は寝台に完全固定された天板「SECURE TABLE」である。X線管球支持柱を含めた映像系の移動のみでX線画像の視野移動を可能とした。天板は固定されているが寝台縦方向158cm、横方向22cmと充分な範囲の視野移動が可能である（**図2**）。このため従来のX線透視の視野移動の際に天板を動かすX線透視撮影装置と異なり、穿刺等の手技を中断するこ

**図1　富士フイルムメディカル社製　CUREVISTA Open　外観**
X線透視室内には患者寝台、近接モニタ、近接操作卓、X線高電圧キャビネットを設置する。
遠隔側のモニタは左からSECURE CAMERA映像（VISTA SCREEN）、X線透視映像、X線撮影画像、録画映像（VC-2000）が並ぶ。また机下には画像処理ユニット、VC-2000本体を設置。

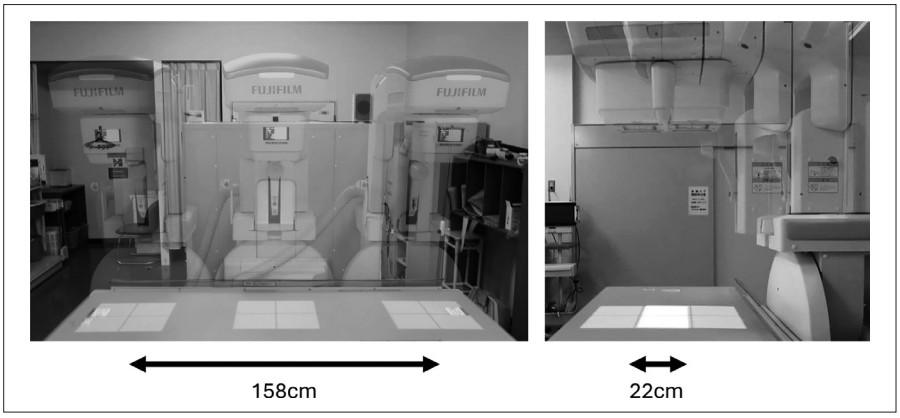


**図2　X線管球支持柱の移動**
X線管球支持柱が寝台縦方向157cm、横方向に22cmの範囲で移動する。充分な大きさの天板（220cm×80cm）のおかげもあって、四肢のような患者の体軸からオフセットする透視検査も問題なく施行できる。